

11/30 <講演会>「大災害で露呈した都市の基盤のもろさ」

(産経新聞×産業研究所連続講演会「関西の地域振興と国際化」第2回(全5回)報告

2018年11月30日(金)に産経新聞大阪本社編集委員の北村理(ただし)氏、産経新聞大阪本社編集局文化部次長の広瀬一雄氏をお招きして、産研講演会「大災害で露呈した都市の基盤のもろさ」を開催いたしました。

1995年の神戸総局在籍中に阪神大震災を経験して以来、災害・防災報道に携わってこられた北村氏からは、日本の都市形成そのものに防災が関わっており、過去の災害から学んで都市開発をすることや「災害対応をどうしているか」という視点から企業を評価することの必要性についてお話いただきました。

また、広瀬氏からは文化部次長からの視点で、より生活に密着した防災に関し、長時間停電への備えや公共交通機関が不通になった場合の徒歩帰宅訓練等についてお話いただきました。

講演後は、産経新聞大阪本社編集企画室次長の田井東一宏氏が加わり、3者で「南海トラフ地震は本当に来るのか」、「いつ起こるかわからない災害のために我々はどのようにしておくべきなのか」などについてディスカッションを行いました。

(この講演会は経済学部開講「経済事情F(担当教員:高林喜久生教授)」の一環として開催いたしました。)

■参加者:47名



北村氏(左)、広瀬氏(中)、田井東氏(右)